

おかげ様で、 喫茶コーナー10年、 ライブコンサート100回！



山吹の里
ボランティアの記録



第一回ライブコンサートのメンバー

喫茶コーナーができるまで

おむつたたみのボランティアで、山吹の里に通うようになってから、新しい老人ホーム「風かおる里」を見学に行く機会がありました。玄関に入ると、明るい喫茶室が私たちを迎えてくれました。

そこは、ボランティアが運営する喫茶室。

地域に開かれた、明るい笑顔がいきかう場所でした。山吹の里にもこんな、喫茶室があったらいいのよね！見学に行った全員の感想でした。



● 介護保険制度スタートの日、視察にみえた故小渕首相（中央後方）との記念撮影



夢が現実に！

そんなこんなで、何年かがたち、「山吹の里にも喫茶室を！」の提案が起きたのです。「やってみる？」
「やってみよう！」
と、怒涛の喫茶コーナー準備が始まりました。平成10年の、6月ごろでした。

怒涛の開店準備

喫茶コーナーには、まず人集め。職員さんが、地域の町会の方に協力の依頼、以前からボランティアとして関わっていた方への、呼びかけ、個人的な友人にも呼びかけ、曜日ごとに、グループが担当する形になりました。

それぞれのグループの代表で集まっては、基本方針、メニュー、料金、必要な什器、設備の検討。

全くのしろうとが、お店をはじめめるのですから、誰でも作れるマニュアルの作成、食材を購入する店の決定、お金の扱い方、金庫の保管法、領収書用の印を作ったりと大変。

8月の後半には、流しや、カウンター、食器棚が完成。いよいよ、実現が近づきました。



ビッグカメラと、合羽橋の道具街へ

設備の関係上、ガスは使えないので、熱源はすべて電気で。
そこで、購入リストを手に、ビッグカメラへ。
冷蔵庫、電子レンジ、電気ポット、コーヒーメーカー等を購入。

その足で、合羽橋にまわり、買いに買ったり、コーヒーカップ、コップ、ポット、ストロー、ナプキン等等。

みんなが、両手に一杯荷物を持って、山吹の里へ。
なんだか、結婚前の準備のときのような、うきうきする買い物でした。
それも、たった一日で！



コーヒーの入れ方講習会

みんなで全てのメニューのおさらい。
すべてが、全員に徹底されるまでは、
しばらく時間が必要でしたが、楽しい
時間でもありました。

こうして、平成10年9月15日、
敬老の日、「喫茶コーナーやまぶき」
が開店したのでした。



喫茶コーナーやまぶきの効能

利用者さんには—
2・3階からエレベーターでおりてくるだけで、外出のような
気分転換ができるのです。面会にいらしたご家族とゆっくり話
す場でもあります。

利用者さんの家族には—
面会をおえて、家に帰る前に、ほっとくつろげる、他の家族の
方と会って、共通の悩みを話し合える場でもあります。

ボランティアにとっては—
新しい出会いがある。楽しい仲間と会える！

利用者さんの貴重な経験談を聞くことができる。
利用者さんの家族の話を聞ける。同じ立場になったとき、相談
できる仲間になる。
きっと、大変なのに明るい家族に、励まされる。

職員の利用者さんへの接し方で、「あ！そうか。こういう言い方
がいいのだ。」とわかる。(次ページへ続く)





喫茶コーナーやまぶきの効能（つづき）

家でやれば、当たり前で、誰も誉めてくれないのに、ここでは、有難うといってもらえます。大人だって、誉めてもらえば嬉しいのです。また頑張ろうと思えるのです。

150円のコーヒーやジュースの売り上げからは、ボランティア自体の収入源ができました。資金があると、夢はまた広がります。

喫茶コーナーでの出会いの中から、新しい挑戦「ライブインやまぶき」へと活動が発展したのです。





- 8年目を迎えて、喫茶とライブのボランティアで楽しみ会を開きました。楽しくなければ続かない。このみなさんの笑顔が、やってよかったと言っているようです。



- ボランティア懇親会でも、様々な意見を交換。



山吹の里で、ライブコンサートをやろうと話が起った時、幾つか話し合ったことがあります。

- ・ 日時は、固定して第3日曜日の2時から。
- ・ コンサートの趣旨に賛同してくれた人にボランティアをお願いします。
- ・ みんなで歌う時間を作る。
- ・ 一回に2～3の演目とし、バラエティとんだものにする。
- ・ 耳が不自由な方もいらっしゃるので、見て楽しい踊りも必ず加える。
- ・ 受付で、名前を名乗り、入場料を払って、プログラムを受け取る。なるべく会話が起きるように、受付で名乗ってもらう。本物のコンサートのように、入っていくのにわくわくできるように。

出演して下さる方は、人から人へと、口コミでお願いしました。

近所のお豆腐屋さんが踊りの先生ときけば、お豆腐屋さんを訪ね、これこれしかじかでお話できないかと頼む。面白いように輪が広がり、それも楽しかったです。

一年のうちでも、季節に合わせての企画が固定するようになりました。

1月はお正月なので、縁起物や和物

7月は始めた月、周年を祝って、常連さんと民生委員さんのコーラス（みみずく）等

8月はハワイアンとフラダンス

12月はクリスマス、ハンドベルや室内楽

途中から舞台も増やし、後ろには赤い幕で舞台らしくなりました。落語やお三味線でのってもら台もでき、少しずつ、少しずつ、進化しました。



ライブ当日は、11時ごろからスタッフが集まりだし、舞台を組み、椅子を並べ、一緒にお昼を食べながら予定を確認。

終われば、出演者を交え、その日を振り返ってお茶を飲む。こんな感じで、山吹の里のコンサートは続いてきました。

おかげ様で、100 回目！

山吹の里に外の風を！とはじめた、ライブ
インやまぶきは、2008年11月16日で
100回目を迎えました。



最初はこれまでたびたび出演して下さった
アンサンブルフリージア Jr さんに伴奏をお願い
して、これまた、常連の豊島区民生委員の方々の
コーラス「みみずく」さん、そして利用者さん、
ボランティア全員で「よろこびの歌」を歌
うことで、始まりました。

弦楽の深い響きの中で、歌を歌うって、滅多に
できることではないです。

ちょっとした興奮の中で歌はおわり、そのまま
四重奏が続きます。

みんなが知っている曲、一緒に歌える曲、
知らないけれど聞きほれる曲。



続いては民生委員の方々の有志が集まってできた
合唱グループ「みみずく」さんの歌。

指揮の方が、とてもわかりやすい指揮をなさるので
とても歌いやすそうです。

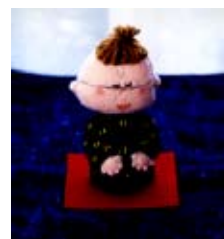
歌い終わったところで、
その月お誕生の方々に、お祝いのプレゼント。

このマスコットをいつも作ってくださる
工藤さんを紹介しますと、みなさんから拍手がわきます。

いままで、お誕生者に配ったマスコットは、
2千個以上！気の遠くなるような数になっています。

休憩には、「いちごコンデンスミルクカルピス」
みなさんがおいしいおいしいと口々にいってくださる。

後半は、初回から参加して下さっている渡辺先生の
踊り。舞台にたつと、びしときまったしぐさに拍手が
起こります。



そしてその後は、女性三人での太鼓演奏。

三つの太鼓を、威勢よくたたくと、
眠たげな目だった利用者さんが
目をカッと見開いて、集中して見えています。

最後は、プログラムには「謎の二人」と書いてあったの
ですが、高木さんの歌と施設長さんのギターで古賀メロ
ディー。

「影をしたい」「湯の町えれじー」等懐かしい歌を聴く。

ジャンルを問わず、楽しい歌と一緒に歌い2時間という
時間、誰も立ち上がったたり、場を乱すことなく

「楽しかった！」
「今日は最高だった！」

終わって部屋にもどるまで、2台のエレベータがフル稼
働しても全員が元に戻るまでは時間がかかるのですが、
その間も歌って過ごします。



音楽が生活になじむって、みんなが穏やかに過ごせるきっ
かけにもなるな、と思います。

終了後、お茶を飲みながら次は200回を目標！という声
が上がり、

「その頃は、もういないかも」
「いや、ここでお世話になっているかも」と笑いながら、
余り遠い目標は難しいから、とりあえず、10年をめざさ
うということになりました。

それにはあと1年と8ヶ月ということになり
それなら、まだ生きているかな！の声。

これからも、皆様よろしくお祈りしますね。



お年寄りに2時間は無理と思われるかもしれませんが、
楽しければ、2時間でも利用者さんは、十分楽
しんでくれます。

演じてくださる方の、一生懸命な演奏や歌は、きち
んと利用者さんにも伝わるものだと思います。

始まる30分前から、居室からの移動を始めるので、
長い方は2時間半以上椅子に座っているのですが、
どなたもそれを苦とは思ってない雰囲気です。



● ライブコンサートと一緒に歌
を歌ううち、歌の好きな利用
者さんたちで、山吹コーラス
隊を作りました。

月に2~3回集まって歌を練
習、その成果は、コンサートの
最初に披露します。衣装も
用意、キラキラで歌います！

制作/文責: 福岡
写真: 永峰/石崎